

<2013.6.11 経済産業委員会>

○はたともこ君 生活の党のはたともこでございます。

私はいつも申し上げておりますが、私は薬剤師で、漢方薬・生薬認定薬剤師の資格も持っておりまして、日本で発展した日本の伝統医学である漢方、漢方医学、漢方薬をクール・ジャパンの一つとして、日本の国家戦略、成長戦略として国内外に展開すべきであると考えております。

この観点から、五月九日の本委員会で、ISO、国際標準化機構のTC249、テクニカルコミッティー249の議論の場で、中国が中国の伝統医学である中医学を国際標準規格とすべく、文字どおり国家戦略として強力に活動しており、日本の伝統医学である漢方が大変な危機にさらされているということについて質問をいたしました。

我が国でISOの基準認証を担当しているのは経済産業省の産業技術環境局ですが、五月九日の私の質問の直後に南アのダーバンで行われたISOの会議の結果について、まず説明をしてください。

○政府参考人(鈴木英夫君) お答え申し上げます。

御指摘の会議の結果でございますけれども、会議では、日本、中国、韓国、ドイツなどから多数の国際標準の提案が出されて議論が行われました。我が国からは、まず安全に係る基準値を設定する場合には、各国の国内規格を配慮すること。二点目として、一般的に流通していない特殊機器は標準化の審議対象とするべきではないといった点を指摘をいたしました。この結果、十六件の提案が今後新たに国際標準策定の審議対象とするか否かの各国の投票にかけられることになっております。

日本からは、先日御答弁申し上げましたとおり、二件について提案を行いまして、そのうち、天然製剤の製造プロセスに関する要求事項が各国投票にかけられることになりました。また、電気ばり、刺激装置の基本的安全事項につきましては、類似の提案を出した韓国と今度は共同で再提案をするということにいたしました。

いずれにしても、我が国の漢方は日本の伝統医学であるとの認識の下、国際的に通用するものとして国際標準から排除されるべきではないと考えておりまして、今後とも国内の専門家の方々としっかりと検討を行い、我が国から新しい、こういった、今申し上げたような提案を行いますとともに、我が国の主張をしっかりと位置付けられるように頑張りたいと思っております。

○はたともこ君 茂木大臣、この会議は来年は日本で行われると聞いております。東洋医学の中で、日本の漢方医学、中国の中医学、韓国の韓医学がそれぞれ並び立つように、大臣の強いリーダーシップを是非発揮していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○国務大臣(茂木敏充君) 参議院の経済産業委員会ってすごいなと思っておりますのは、先ほどの松田委員の御質問を聞きますと、後ろにクリエイターの方がたくさんいるような気がいたしますし、また、はた委員の御質問を聞きますと、必ず漢方医学という形で一貫をされているなと思っておりますが、御指摘の次の専門委員会につきましては日本で開催する予定でございまして、我が国の漢方、生薬であったりとか鍼灸は日本の伝統医学であるとの認識の下、国際的に通用するものとして政府として国際標準化を働きかけているところでありまして、今後、日本の漢方医学を世界に発信できるリーダーシップをしっかりと発揮していきたいと思っております。

○はたともこ君 ありがとうございます。

東洋医学、東アジア伝統医学における日本、中国、韓国の競争は、WHOの国際疾病分類、いわゆるICD分類の議論でも行われております。厚生労働省も含む日本協力センターの活動もあるわけですが、例えば拠出金の問題でも、中国と韓国は政府が一億二千万円の拠出金を負担するが、日本の場合は日本東洋医学会など民間団体の負担となっており、その上更に今回新たに拠出を求められており、大変な御苦労をされていらっしゃると思います。

厚生労働省、WHO、ICD分類の最新の状況と、日本協力センターの活動、そしてこ

の拠出金の問題、日本でも政府が拠出をすべきではないか、この三点について伺いたいと思います。

○政府参考人(神田裕二君) 先生御指摘のように、WHOの国際疾病分類については、現在、いわゆるICD11に向けました改訂作業が進められておりますが、今次の改訂では初めて東アジア伝統医学の分類を組み込むプロジェクトが立ち上がっております。昨年五月にはICD11の草案が一般公開されまして、現在、日中韓の医療現場における実証実験の実施が予定されているという段階でございます。今後、専門家によるICD11の草案の査読ですとか実証試験の結果を踏まえまして、二〇一五年にWHOから勧告が行われる予定というふうに承知しております。

我が国は、東洋医学を実践する主要国の一つとしまして、日本東洋医学会の専門家、具体的には慶応大学の渡辺先生にWHOの関係会議に出席して共同議長として議論に加わっていただいているところでございます。厚生労働省としては、このほか、渡辺教授が出席いただきますWHOの会議に政府の担当者を派遣しまして、韓国、中国との交渉に積極的に参加してきているところでございます。引き続き、東洋医学会とともに日本の伝統医学の考え方が反映できるようにWHOの会議に今後とも政府の担当者を派遣しますとともに、ICD11の草案に対する査読に際して専門家を登録したり、あるいは実証試験の実施医療機関を募るなど、積極的に協力、支援していきたいというふうに考えております。

それから、センターの活動状況ということでございますけれども、これにつきまして、我が国の発言力を確保するということから、二〇一一年の九月に日本東洋医学会を含む四組織とともに厚生労働省も加わる形で日本協力センターの指定を受けております。現在、日本協力センターにおきましては、ICD11の改訂作業につきまして、東洋医学分野及び内科分野における国際専門家から成る改訂作業グループの事務的支援などを行っているところでございます。

それから、拠出金についてのお尋ねがございましたけれども、政府が行います拠出金としましては、加盟国が義務的経費として支払い用途を特定できない分担金というもの、分野を指定した上で任意で拠出する任意拠出金の二種類がございます。このうち分担金については日本は世界第二の負担国で四十七億を分担しておりますけれども、一般的にはWHOの主な業務として各種基準づくりというのがございますけれども、ICDの見直しもこれに該当しますので、このようなWHOが幅広く専門家委員会の意見を聞き公正な立場で行うことが求められる業務については、基本的には各国が義務的経費として支払う分担金が用いて行われているものと承知しております。具体的には、この改訂を担当しておりますインフォメーションエビデンスリサーチという部局にもこの分担金が使われていることから、日本も応分の分担はしているものというふうに考えております。

ただ、任意の拠出金ということで民間で拠出をされております日本東洋医学会が、WHOの方にこのプロジェクトの年間三億円の予算の用途ですとか、日中韓のそれぞれの三か国の分担額がどうか、それから日本の拠出金の用途等について問合せをしているところでございますけれども、WHOの担当者からは必ずしも明確な回答がないというふうに承知しております。

○はたともこ君 では、茂木大臣、本委員会も含めまして私は再三提案をさせていただいておりますが、天然ガスコンバインドサイクル火力発電や最新型の石炭火力などの高効率火力発電、また電池三兄弟、太陽電池、燃料電池、蓄電池の電池三兄弟によりエネルギーの自給自足を目指すスマートハウス、スマートカンパニー、スマートコンビニ、スマートシティーなどは日本が世界に誇る最先端技術であり、ノウハウです。さらに、これに日本が世界に誇る伝統医学である漢方も加えて、クール・ジャパンとして日本の国家戦略、成長戦略とすべきであると私は思います。

改めまして、大臣のクール・ジャパンに対するコンセプトも含めまして、御見解を伺い

たいと思います。

○[国務大臣\(茂木敏充君\)](#) 御指摘のように、日本の高効率の火力発電、例えば石炭火力でいいますと、日本の技術をそのままアメリカそして中国やインドに応用しますと、それだけで年間十五億トンのCO2の削減ができます。これは日本の年間の排出量全体に当たると。これだけ世界トップレベルの技術があるわけであります。

また、蓄電池におきましても、日本の技術、最高でありまして、今後これが電力系統であったりとか電気自動車といった形で応用されていきますと、今の一兆円の市場が二〇二〇年には二十兆円に膨らんでいく。日本としてはこのうちの半分のシェアを取っていきたい、こういったことも考えております。そして、その背景には、もったいないと、儉約であったりとか節約であったりとか、そういった日本の文化、伝統と生活習慣があるというのは間違いないことだと思っております。

じゃ、高効率の火力発電をクール・ジャパンとして位置付けるかどうかということにつきましては、まさに機構においてこういった事業に出資するかということで決まってくるものだと思っております。

○[委員長\(増子輝彦君\)](#) はたともこさん、時間が終了しておりますので、おまとめください。

○[はたともこ君](#) 日本の漢方についてもクール・ジャパンに加えていただきたいと先ほど申し上げましたが、その点、最後、御見解を伺います。

○[国務大臣\(茂木敏充君\)](#) 具体的な事業については機構で考えるにしても、漢方もまさに日本の伝統文化に根差したものだ、このように考えております。

○[はたともこ君](#) 終わります。ありがとうございます。